



小学生とハードルのハンデ付きで50m走を競った田中選手①

ストリート陸上in遠野 10月8日
世界レベルのハードル競技を体感

ストリート陸上in遠野が市民センター前特設会場で初開催されました。世界レベルの陸上競技を見ようと市内外から150人が来場。スペシャルゲストとして富士通所属の石川周平選手と田中佑美選手が参加し、ハードルの跳び方実演やハンデ付き50m走で会場を盛り上げました。小野寺まゆ香さん(水沢第一高3年)は、「メダルを触らせてもらったり、選手と会話ができたりして楽しかった」と目を輝かせました。



鍋から立ち上る湯気が食欲を誘った

2023躍進みやもり祭 10月15日
食やイベントを家族で楽しむ

躍進みやもり祭は、宮守体育館などを会場に開催。約1,000人が来場し、▷物産販売▷保育園児の舞台発表▷お楽しみ抽選会——などで盛り上がりを見せました。JAふれあい祭りも同時開催。各種体験コーナーや屋台が出店し、多くの家族連れでにぎわいました。阿部夏子さん(宮守町)は、「保育園児のダンスがかわいらしかった。食べ物も種類がたくさんで目移りした」と祭りを満喫しました。



協定を結んだ多田市長と迫上仙台支店長②

遠野市と大塚製薬㈱との包括連携に関する協定 10月16日
健康を支えるチームメイトに

同協定締結式が市役所本庁舎で開かれ、市と大塚製薬㈱が包括連携に関する協定を締結しました。内容は、▷健康づくりの推進▷熱中症対策▷災害時の対策——など10項目。市民の健康増進を目的に、熱中症アンバサダーの養成や健康セミナーの開催などに取り組みます。迫上仙台支店長は、「皆さんの健康に貢献することが当社の理念。健康課題の解決に向け、市と協力したい」と今後の展望を語りました。



最高価格で落札されたオルフェウス

第50回遠野市乗用馬市場 10月17日
節目の50回、遠野産馬に熱視線

乗用馬市場(遠野市畜産公社主催)は遠野馬の里で開かれました。3歳馬までの計22頭が上場。全国各地の購買者が熱い視線を送り、活気にあふれました。最高価格は同公社所有のオルフェウス(3歳)で221万円。落札頭数19頭(前年比3頭増)、売上総額1,923万円(前年比105%)でした。弘岡明夢さん(東京都)は、「貫禄と美しさ両方を持つ馬を購入できて大満足です」と笑顔を見せました。

9月29日 地方創生に関する連携協定締結式
小水力発電で連携協定結ぶ

同締結式が市役所とびあ庁舎で開かれ、市と㈱リコー、リコージャパン㈱の3者が地方創生に関する協定を結びました。今後は、小水力発電を活用した再生可能エネルギーの普及や農林畜産業、観光振興などを協力して実施。脱炭素社会の実現を目指して取り組みます。多田市長は、「両者が持つ技術と経験を生かして脱炭素や地域活性化の実現に取り組みたい」とあいさつしました。



協定を結んだ関係者ら

10月3日 宮守小児童の旧宮守村棚田稲刈り
児童が伝統的な米づくりを体験

農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に認定されている旧宮守村棚田で、宮守小(菊池和恵校長、全校児童67人)の5年生13人が稲刈りを体験しました。宮守川上流生産組合組合員の指導を受け、鎌を使って手刈り。刈った稲を結束し、はせがけしました。初めての体験に汗をかきながら元気いっぱい作業。佐々木聖菜さんは、「最初は鎌が怖かったけれど、慣れると早く刈れて楽しい」と笑顔で話しました。



「上手く刈れたよ!」と初めての稲刈りを楽しんだ

10月4日 小さな拠点におけるこれからの地域づくり講演会
地域づくりを次のステージへ

同講演会があえりあ遠野で開催され、地域づくりに取り組む関係者ら144人が参加しました。吉野英岐さん(岩手県立大学総合政策学部教授)が、「小さな拠点を活用したこれからの地域づくり」と題し講演。地域資源の再点検や外部人材の活用などを提言しました。菅原一雄さん(遠野第4区自治会長)は、「課題は山積みだが、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりに取り組みたい」と力を込めました。



地域づくりの現状と課題を説明する吉野教授

10月7・8日 第46回遠野市産業まつり
多彩な催しが大集合、笑顔広がる

産業まつり(わらすっこまつりや遠野テレビフェスタ2023など同時開催)は蔵の道ひろばと市民センターを会場に開かれました。38の企業・団体が特色を生かしたブースを出展。11,000人が来場し特産品販売や木工体験、ステージイベントなどを楽しみました。菊池真理子さん(松崎町)は、「色々なブースがあっておもしろい。子どもから大人まで楽しめた2日間でした」と笑顔で会場を後にしました。



ステージイベントでは妖怪なりきりのど自慢が初めて行われた